

ドイツ語とオランダ語の所在動詞の対照研究

-stehen/lehnen と staan/leunen を対象に

岡 部 亜 美

1 はじめに

本稿はドイツ語とオランダ語の二つの言語で、物体の所在を表す動詞、特にドイツ語 *stehen* とオランダ語 *staan* (共に (英) *stand* 「立っている」)、およびドイツ語 *lehnen* とオランダ語 *leunen* (共に (英) *lean* 「寄りかかる」) に関するアンケート調査を行った結果を報告するものである。両言語の所在動詞を比べると、ドイツ語 *stehen* とオランダ語 *staan* の意味は非常に類似している一方 (cf. Okabe (2017))、各言語の所在動詞体系を踏まえると、厳密には、オランダ語 *staan* の意味範囲がドイツ語 *stehen* の意味範囲より広くなることが予想される。これは、ドイツ語とオランダ語では所在動詞と見なされる動詞の数、種類に違いがあるからである (Levinson/Wilkins (2006), Amkea/Levinson (2007))。本稿はこの予想について、ドイツ語 *lehnen* 及びオランダ語 *leunen* との関連で調査したものである。

オランダ語及びドイツ語では、物理空間における物体の所在を記述するのに、所在動詞と呼ばれる複数の動詞が用いられる。所在動詞は両言語において、所在している物体の幾何学的及び、機能的特徴や物体間の空間関係、話者が状況をどのように把握しているかに応じて使い分けられている。例えば図 1 にみられるように、上下左右に自由に動かすことができる直方体の箱の所在を記述するとき、垂直方向により長くみえる形で置かれた場合は *stehen/staan* が、水平方向により長くみえる形で置かれた場合は *liegen/liggen* (共に (英) *lie* 「横になっている」) が用いられる。

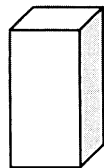
Der Kasten steht auf dem Boden.De doos staat op de vloer.Der Kasten liegt auf dem Boden.De doos ligt op de vloer.

図 1 床の上の直方体の箱の所在記述

(各文訳「箱が床の上にある。」)

これら所在動詞はドイツ語とオランダ語で多くが同源語であり、その用法も言語間で類似している。特に姿勢動詞でもある、ドイツ語 *stehen* 及びオランダ語 *staan* のペアと、ドイツ語 *liegen* 及びオランダ語 *liggen* のペアは、図1でそれぞれの動詞ペアの出現が言語間で対応していることから分かるように、とりわけ意味的な共通項が多いといえる。

一方で、同源語のペアが必ずしも完全に同じ意味を持つわけではないこともまた事実である。例えば Oosting (2016) の行ったアンケート調査では、「物体が物体に寄りかかっている」という図2のような状況で、オランダ語の *staan* がドイツ語の *stehen* より広い意味で用いられることを示唆する結果が得られた。以下の図からは、「梯子が壁に寄りかかっている」という状況は、オランダ語（図左）では *staan* で典型的に記述でき（47名の回答者のうち、91.49%が同動詞を使用）*leunen* が使用されにくい（同 6.38%）が、ドイツ語（図右）では、*stehen* の使用が排除されるわけではないものの（42名の回答者のうち、33.33%が同動詞を使用）、*lehnen* のほうがより好んで使用される（同 54.76%）ことが分かる。

TRPS 58: Objekt

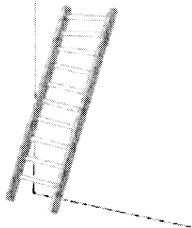
<u>NL</u>	<u>N=47(100%)</u>		<u>DE</u>	<u>N=42(100%)</u>
<i>hangen</i>	2.13%		<i>hängen</i>	2.38%
<i>leunen</i>	6.38%		<i>lehnen</i>	54.76%
<i>staan</i>	91.49%		<i>sein +P</i>	9.52%
			<i>stehen</i>	33.33%

図2 「梯子が壁に寄りかかっている」という状況を記述するのにオランダ語（左）とドイツ語（右）でそれぞれ用いられる動詞（Oosting 2016: 91）

以上二つの図から分かるように、ドイツ語 *stehen* は、先の図1左側のような状況を言い表すのには典型的に用いられるが、図2のような状況の記述にはあまり向かない。一方でオランダ語 *staan* は、図1左側と図2、どちらの状況の記述にも典型的に用いられる。またこの際、図2について、ドイツ語では *stehen* に取って代わるように *lehnen* の使用率が増えるようにみえるが、オランダ語では同源語 *leunen* の使用は限定的なものにとどまっている。

Oosting (2016) の調査は、基本的な意味を共有するドイツ語 *stehen* とオランダ語 *staan* の意味の違いを明らかにした興味深いものであるが、様々な物体や空間関係を網羅的に調査するものであったため、「物体が物体に寄りかかっている」という特定の状況に対しては、これ以上の手がかりを与えてくれない。例えば、物体間の角度を変えたときに *stehen* と *lehnen* の使用がどのように変化するのかに関して、すなわち両者の使い分けがどのように行われているのか、またその際、対照言語学的観点からはどのような現象が観察できるの

かについては、検討の余地があるといえるだろう。

したがって、本稿は Oosting (2016) の調査を発展させるかたちで、ドイツ語 *stehen* と *lehnen*、及びオランダ語 *staan* と *leunen* が、動詞の意味範囲の境界領域でどのように使い分けられているか、アンケート調査により記述的に提示することを行う。

2 先行研究のまとめと問題提起

以下では本稿で調査対象とする *stehen/staan* 及び *lehnen/leunen* の意味、及びその相互関係を確認する。そのうえで、ドイツ語 *stehen* とオランダ語 *staan* の意味が完全に等しいとはいえない理論的な根拠、特にオランダ語 *staan* のほうがドイツ語 *stehen* より意味が広いと考える根拠について、類型論的なクラス分けの観点から説明する。最後に、これらの記述を踏まえて、本稿の仮説を提示する。

2.1 各動詞の意味と相互関係

本稿の対象でもあるドイツ語 *stehen* 及びオランダ語 *staan* の基本的な意味は、「物体が機能的に正しい姿勢で所在している」あるいは「(水平方向より) 垂直方向に長い物体が所在している」である (Kutscher/Schultze-Berndt (2007)、Okabe (2017))。「機能的に正しい姿勢」というのは、その物体が機能を果たすために適切な置かれ方をされているということである。例えば、冷蔵庫のようなおよそ直方体の物体があるとき、形の点ではあまり差異がなかったとしても、冷蔵庫を上下逆さまに置くと、冷蔵庫は正しく機能しない。このような例から、一部の物体にはその機能を果たすのに想定されている置かれ方があり、置かれ方が異なると機能を果たすことができなくなることが分かる。一方、当該の物体にこのような機能的な姿勢が特に想定できない場合 (図1でみたような、上下左右に自在に動かすことのできる箱等)、物体が垂直方向に長いことが *stehen/staan* の使用を引き起こす。

以下は両言語における各意味の例文であるが、ドイツ語では *stehen*、オランダ語では *staan* が用いられ (下線部)、両者に対応関係がみられることに注意されたい。

- (1) 「物体が機能的に正しい姿勢で所在している」
 - a. Der Teller steht auf dem Tisch.
 - b. Het bord staat op tafel.
皿が机の上にある。
- (2) 「(水平方向より) 垂直方向に長い物体が所在している」
(図1左側のような状況を指して)
 - a. Der Pappkarton steht auf dem Boden.
 - b. De kartonnen doos staat op de vloer.
箱が床の上にある。

次に、ドイツ語 *lehnen* 及びオランダ語 *leunen* は基本的に、「(ある) 物体が (別の) 物体に寄りかかっている」ことを意味する。さらに詳しくいうと、直行する二つの面 (例えば図 2 では床と壁) に、変形することなく自重を支えることのできる一つの物体、典型的には硬く長い物体 (図 2 では梯子) が接触していることを表す。

(3) 「物体が物体に寄りかかっている」

a. De ladder staat tegen de muur.

b. Die Leiter lehnt an der Wand.

梯子が壁に寄りかかっている。

また、ドイツ語所在動詞に関して体系的な調査を行った Kutscher/Schultze-Berndt (2007: 1007) は、ドイツ語 *lehnen* が *stehen* と競合するという調査結果について報告している。同研究は、二つの面のうち垂直の面と物体の間の角度が小さく、物体がまっすぐに立っているように見えやすいほど、*stehen* が使用されやすいことを指摘している。

以上のように、ドイツ語 *stehen* とオランダ語 *staan*、及びドイツ語 *lehnen* とオランダ語 *leunen* は意味的に類似している面がある。一方で前章で Oosting (2016) の調査にみたように、「物体が物体に寄りかかっている」という状況においては、*stehen* と *lehnen* あるいは *staan* と *leunen* のどちらの動詞を好んで用いるか、言語差があることが確認できる。また、先行研究では垂直面と物体間の角度を問題にして、ドイツ語における二種類の動詞間の使用の推移について説明を行っていた。この点はオランダ語では確認されていない。これらを踏まえると、オランダ語における二種類の動詞の使用の推移、およびこのような推移に際して生じ得る言語差については、まだ十分に明らかになっていないといえる。

2.2 ドイツ語とオランダ語の所在動詞体系の類型論的な位置づけと言語差の関係

前節で述べたように、本稿の対象とする二種類の動詞の意味は言語間で似通っているが、両言語においてその意味が完全に同じわけではないというのも明らかである。このような言語差を生む要因の一つとして考えられ得るのが、類似の意味を持つ他の動詞との接触である。すなわち、各言語で異なる類義語と接触し、互いの意味範囲を調整するという個別言語的な過程を経ることで、当該の動詞が両言語で異なる意味を持つようになったという可能性である。以下に述べるように、ドイツ語とオランダ語は所在動詞体系の典型的なタイプが異なるため、所在動詞の数や種類に違いがみられる。このような言語差が、本稿で対象とするドイツ語 *stehen/lehnen* とオランダ語 *staan/leunen* の動詞の意味に言語差を生じさせたのではないだろうか、というのが筆者の考えである。

まず Levinson/Wilkins (2006) 及び Ameka/Levinson (2007) によれば、類型論的な観点からは、ドイツ語は十一種の基本所在動詞 (cardinal locative verbs) を有するタイプ III 言語「多

数 (9-100) の位置動詞を有する言語」であり、オランダ語は六種の基本的な所在動詞を有するタイプ II 言語「少数 (3-7) の対照的動詞を有する言語」である。したがって、単純に考えるのであれば、オランダ語のほうがドイツ語よりも少ない数の動詞で同じ意味領域をカバーしている、つまりオランダ語の個々の動詞の意味はドイツ語の同源の動詞より広いのではないかと予想できる。

また、「基本所在動詞」という概念の点でも両言語には違いがある。Levinson/Wilkins (2006) 及び Ameka/Levinson (2007) の研究では *where* 疑問文への回答に用いられる文を基本所在構文 (Basic Locative Construction (BLC)) として、同構文に出現する動詞を基本所在動詞として調査対象としている。これらの調査によれば、本稿の対象であるドイツ語 *stehen* 及びオランダ語 *staan* は共に基本所在動詞であるが、ドイツ語 *lehnen* 及びオランダ語 *leunen* に関しては、前者のみが基本所在動詞であり、後者は基本所在動詞と認められていない。このため、本稿の対象である四種の動詞のうち、オランダ語 *leunen* だけが基本所在動詞に含まれないことになり、他の三種の動詞と比較して使用されにくいと考えられる。

2.3 問題提起

2.1 でみたように、両言語における二種類の動詞の意味は、基本的には類似している。一方で Oosting (2016) や Kutscher/Schultze-Berndt (2007) の研究結果や、2.2 でみたような類型論的な研究によれば、部分的には意味的な差異が存在すると考えられる。このような相違点について、Kutscher/Schultze-Berndt (2007) が指摘するような物体間の角度の問題を考慮しながら、より多くの状況を対象とした調査をするというのが本稿の主眼である。本稿では具体的には以下の三点を仮説としたい。

- (4) a. 仮説 1: 基本所在動詞の種類が少ないオランダ語の動詞のほうが、対応するドイツ語の同源語よりも意味範囲が広い。したがって、オランダ語 *staan* のほうが、ドイツ語 *stehen* より意味が広い。
- b. 仮説 2: オランダ語 *leunen* は基本所在動詞ではない。したがって、オランダ語 *leunen* のほうが、ドイツ語 *lehnen* より使用されにくく、ひいては意味がより狭い。
- c. 仮説 3: ドイツ語 *stehen/lehnen* の使用においては、物体間の角度が狭いときに特に *stehen* が使用されやすい。この傾向はオランダ語 *staan/leunen* にもあてはまる。したがって、オランダ語 *staan* は、物体間の角度が狭いときに特に使用されやすい。

仮説 1 及び仮説 2 については、2.2 で述べたように、類型論的な観点から行われた先行研究に基づいた予想である。仮説 1 については、さらに、Oosting (2016) の調査結果によって局所的に実証されているといえるだろう。仮説 3 について、図 2 にあげた Oosting (2016)

の調査結果について振り返ってみると、調査に用いられた絵では、壁と梯子の間の角度が狭く、「物体が物体に寄りかかっている」として把握され得る状況の中では、比較的 *stehen* が許容されやすい配置になっているのではないかと考えられる。一方で、オランダ語では図 2 においては *staan* の使用が優勢だったが、オランダ語 *staan* と *leunen* がドイツ語の同源語と同じような関係を持っていると仮定すると、物体間の角度が広がることで、*staan* が許容されにくく、*leunen* が許容されやすくなるという現象が観察されるはずである。

3 アンケート調査

3.1 調査概要

以上を踏まえ、本稿では、物体間の角度を調整した複数の絵を記述する際に、ドイツ語で *stehen* と *lehnen*、オランダ語で *staan* と *leunen* のどちらが好まれるかを調べるアンケート調査を行った。

調査手法としては、角度を区別した 8 枚の絵（下図 3 参照）に対してそれぞれ *stehen* または *staan* を本動詞とする文と、*lehnen* または *leunen* を本動詞とする文の二種類（以下(5)）を掲示し、回答者に許容度を四段階（3＝「許容できる」、2＝「まあまあ許容できる」、1＝「あまり許容できない」、0＝「許容できない」）で評価してもらった。

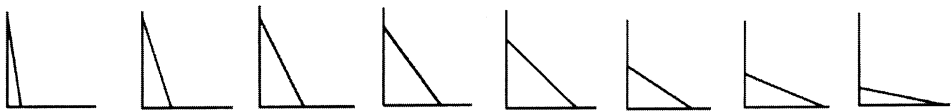


図 3 調査で用いた絵

（垂直面と棒の間の角度が左から、10°、20°、30°、40°、50°、60°、70°、80°）

- (5) a. Der Stock steht/lehnt an der Wand.
 b. De stok staat/leunt tegen de muur.
 棒が壁に寄りかかっている。

調査は 2016 年 11 月にオンライン上で行った。回答者の男女比、年齢層の分布は以下の通りである。

表 1 回答者の男女比

	男	女	計
ドイツ語	11	22	33
オランダ語	11	25	36

表 2 回答者の年齢層

	10代	20代	30代	40代	50代	計
ドイツ語	4	18	8	3	0	33
オランダ語	11	21	2	0	2	36

3.2 調査結果

調査結果は以下表 3 から表 6 のようにまとめられる。なお、各角度で最も回答数が多かった欄を色付きで示し、各表の最終列には中央値をあげた。

表 3 によるとまず、ドイツ語では *stehen* はほとんど許容されないことが分かる。同動詞は 10 度のときに最も許容度が高いが、それ以降は、角度が狭くなるのに合わせてほぼ段階的に許容される割合が減る。一方で表 4 にあげたように、*lehnen* では「許容できる (3)」を選択する人の割合が一貫して最も高い。同動詞も *stehen* 同様、角度が狭くなるにつれ、許容しにくいと見なす人の数が徐々に増えていくものの、70 度までは「許容できる (3)」と「まあまあ許容できる (2)」を選択した人の数を合わせると、過半数が同動詞の使用を許容したことになる。

表 3 ドイツ語 *stehen* の角度別の許容度

	10°	20°	30°	40°	50°	60°	70°	80°
0	5	4	14	19	24	23	28	29
1	0	12	9	7	5	3	2	0
2	9	9	7	3	1	2	0	0
3	15	4	1	1	0	1	0	0
無回答	1	4	2	3	3	4	3	4
計	33	33	33	33	33	33	33	33
中央値	2	1	1	0	0	0	0	0

表 4 ドイツ語 *lehnen* の角度別の許容度

	10°	20°	30°	40°	50°	60°	70°	80°
0	0	0	0	0	0	3	4	11
1	2	2	2	3	5	6	5	4
2	3	6	9	6	4	6	6	2
3	27	25	22	23	24	16	16	13
無回答	1	0	0	1	0	2	2	3
計	33	33	33	33	33	33	33	33
中央値	3	3	3	3	3	3	3	3

表 5、表 6 によれば、オランダ語では 10 度と 20 度では *staan* の使用が相対的に強く好まれるが、30 度では *staan* と *leunen* が許容される割合はほとんど等しくなり、50 度以降は *staan* の許容度が急激に下がっていく。*leunen* も角度が狭くなるのに合わせて段階的に許容度が

下がっていくが、80度のときも「許容できる(3)」と「まあまあ許容できる(2)」を合わせて六割弱の回答者に許容されていることが分かる。

表5 オランダ語 staan の角度別の許容度

	10°	20°	30°	40°	50°	60°	70°	80°
0	0	0	1	2	6	9	18	24
1	0	0	3	4	8	14	10	8
2	1	4	4	9	9	5	4	2
3	34	32	28	21	13	8	4	2
無回答	1	0	0	0	0	0	0	0
計	36	36	36	36	36	36	36	36
中央値	3	3	3	3	2	1	0.5	0

表6 オランダ語 leunen の角度別の許容度

	10°	20°	30°	40°	50°	60°	70°	80°
0	2	1	1	1	2	4	5	12
1	1	3	3	3	5	6	5	3
2	7	5	7	7	7	6	7	4
3	26	27	25	24	22	20	19	17
無回答	0	0	0	1	0	0	0	0
計	36	36	36	36	36	36	36	36
中央値	3	3	3	3	3	3	3	2

両言語における各動詞の中央値の推移をグラフにしたのが以下の図である。

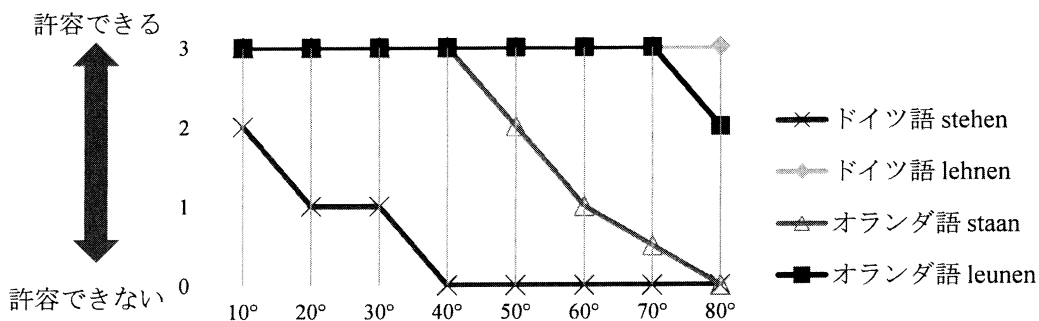


図4 ドイツ語 stehen/lehnen 及びオランダ語 staan/leunen の許容度の中央値の推移

上図から分かるように、ドイツ語 leunen、オランダ語 leunen は共に一貫して許容度が高い一方、ドイツ語 stehen とオランダ語 staan の許容度は段階的に低くなっている。特にドイツ語 stehen は、10度の段階で既に許容度がかなり低く、40度の段階ではほとんど許容されなくなっている。オランダ語 staan はドイツ語 stehen よりは許容される範囲が広いが、

やはり 40 度を超えると急激に許容度が下がり、80 度では、ドイツ語 *stehen* 同様ほとんど許容されなくなっている。

以上の結果から、ドイツ語とオランダ語では *stehen/lehnen*、及び *staan/leunen* の許容度に違いがあることが分かった。具体的には、ドイツ語 *stehen* よりオランダ語 *staan* のほうが許容される角度の範囲が広く、ドイツ語 *lehnen* よりオランダ語 *leunen* のほうが僅かだが許容される角度の範囲が広い。また、ドイツ語では一貫して *lehnen* のほうが許容されやすい一方で、オランダ語では角度が急な場合は *leunen* より *staan* の使用が好まれる。一方で、オランダ語の *staan* の使用が一貫して *leunen* より好まれるわけではない。50 度以降になると、オランダ語でも *leunen* のほうが *staan* より許容されやすくなるといえるだろう。

4 考察

以上のように、本調査では「物体が物体に寄りかかっている」という状況におけるドイツ語 *stehen/lehnen* 及びオランダ語 *staan/leunen* の意味の違いについて、物体間の角度を調整しながら詳細に調査を行った。結果として、*stehen/staan* のペアについては、オランダ語 *staan* のほうがドイツ語 *stehen* より許容される角度が広く、逆に *lehnen/leunen* のペアについては、僅かな差ながら、オランダ語 *leunen* のほうがドイツ語 *lehnen* より許容される角度が広いという結果になった。

ここで改めて (4) にあげた仮説と調査結果の整合性について考えてみたい。仮説 1 及び仮説 2 については、Oosting (2016) の調査でも局所的に実証されていたが、本調査では角度に変化をつけることで、より多くの状況における両動詞の使用を記述できた。仮説 3 については、本調査で新たに認められた特徴といえるだろう。

また、本調査結果を踏まえて Oosting (2016) (図 2 参照) を振り返ってみると、使用された絵で壁と梯子の間の角度が非常に狭かったために、ドイツ語においてもオランダ語においてもそれぞれ *stehen/staan* の使用が支配的になるという結果が得られたと考えることができる。本調査によれば、「物体が物体に寄りかかっている」という状況におけるドイツ語 *stehen* の許容度は決して高くないので、この調査結果はドイツ語 *stehen/lehnen* 及びオランダ語 *staan/leunen* の関係を示す代表的な例とはいえないだろう。

続いて、それぞれの言語における二種類の動詞の関係について考えてみたい。各言語において、二種類の動詞の使用は明確な一点で線引きできるものではなく、一つの動詞の使用からもう一つの動詞の使用へ漸次的な推移がみられる。本調査においては、この推移は物体間の角度と相関している。つまり、角度が狭いときは *stehen/staan* のペアが相対的に好まれるが、角度が広くなるにつれ、段々と *lehnen/leunen* のペアのほうが相対的に好まれるようになる。ただし、80 度のように角度が相当広い場合は、*lehnen/leunen* のペアの使用もかなり不自然になる。

本調査で角度として示してきたのは、結局のところ、物体の垂直性に還元されるといえ

る。第二章で *stehen/staan* の基本的な意味として、「(水平方向より) 垂直方向に長い物体が所在している」とあげたが、提示された状況がこの意味に当てはまるとみなせるか否かによって、*stehen/staan* が許容されるかどうかが決まるといえるだろう (cf. Kutscher/Schultze-Berndt (2006))。

一方で両動詞が、提示された状況をどこまで *stehen/staan* の「垂直性」という意味に当てはまると見なすかには、言語差がみられる (図 4 参照)。本調査では、ドイツ語 *stehen* ではより厳密な「垂直性」が前提とされ、オランダ語 *staan* ではより緩やかな、「垂直らしい」状況も許容されることが分かった。

5 まとめと今後の展望

本稿では、ドイツ語 *stehen/staan* 及びオランダ語 *staan/leunen* の意味について、アンケート調査を行った結果を報告し、各動詞ペアにみられる言語差、及び各言語における二種類の動詞間の意味の推移について観察した。各動詞の基本的な意味をみるだけでは気付かない、細かな意味差や動詞間の意味の関係について明らかにできたと思う。今後は動詞全体の意味や用法間の意味の関連性といった、より包括的な観点からの研究の中に本研究の成果を位置づけていきたい。

謝辞

本調査研究を行うにあたり、アンケートの作成・配布にご協力頂いた Michael Elmentaler 教授 (クリスティアン・アルブレヒト大学キール)、Dick Smakman 博士 (ライデン大学)、Anja Collazo 博士、Niels Erdkamp 氏、及びアンケートにご回答頂いた皆様に深く感謝の意を表します。

参考文献

- Ameka, Felix K. / Levinson, Stephen C. (2007): "Introduction, The typology and semantics of locative predicates: posturals, positional, and other beasts". *Linguistics* 45 (5/6). 847-871.
- Kutscher, Silvia / Schultze-Berndt, Eva (2007): "Why a folder lies in the basket although it is not lying: the semantics and use of German positional verbs with inanimate Figures". *Linguistics* 45 (5/6). 983-1028.
- Levinson, Stephen C. / Wilkins, David P (eds.) (2006): *Grammars of Space – Explorations in Cognitive Diversity*. Cambridge. Cambridge University Press.
- Okabe, Ami. (2017): „Kontrastive Untersuchung der Positionsverben im Deutschen und Niederländischen“. *Sprachwissenschaft Kyoto* (16). 53-71.
- Oosting, Tabitha (2016): „Positionsverben. Der Unterschied zwischen der deutschen und niederländischen Sprache beim Gebrauch der Verben *sitzen* (*zitten*), *liggen* (*liggen*) und *stehen* (*staan*) bei Menschen, Tieren und Objekten“. ユトレヒト大学学士論文.